

ハザードマップを所持している人は3割に届かず

～20代で防災意識が高い人の、4人に1人はスマホでハザードマップを所持～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

調査結果 : ①ハザードマップの認知、所持、所持方法

②ハザードマップをスマホにダウンロードしている人の特性

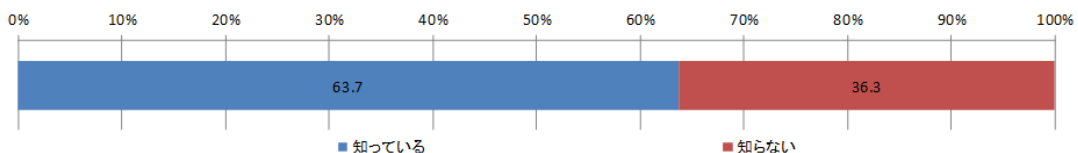
■ 調査結果

1ー ハザードマップは3人に2人が知っていて、その4割強が所持している

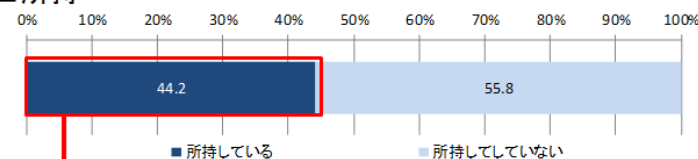
防災・減災を考える上で、「ハザードマップ」の有効活用は非常に重要である。平時から「ハザードマップ」を活用し、危険個所や避難経路等を、把握しておくことが肝心ではあるが、災害は家にいない時や、普段行き慣れていない旅行先でも発生する可能性はある。そうした時のためにも、スマホでハザードマップを平時ダウンロードして持ち歩くことも検討したい。

まず今回の調査において、「ハザードマップ」の認知を聞いたところ、3人に2人が知っていた。その認知している人たちに、「ハザードマップ」を所持しているか尋ねた所、4割強が所持していた。つまり、全体では3割弱の所持である。どのような形で所持しているかは、多くの人が紙であり、スマホ等にダウンロードしている人は、2割弱であった。

■ 認知



■ 所持



■ 所持の方法

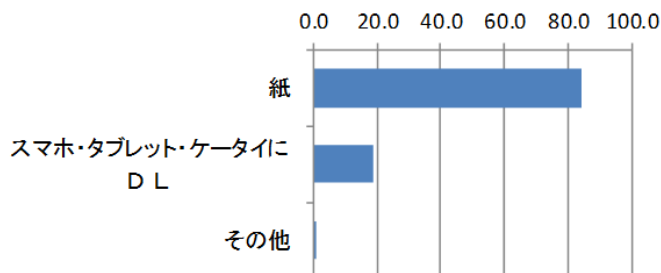


図1 ハザードマップの認知・所持・所持方法

2-1 ハザードマップを知っている人の特性は「防災意識」が強く関係

ではハザードマップを知っている人の特性は何か、分析した所、「防災意識」最も強く、また2位以下を離して関係していた。防災意識が高い人がハザードマップを知っている結果となった。次いで「自治体行政への関心」4位に「防災行政への満足」と自治体への興味に関わる項目も関係していた。3位は、居住エリアであった。

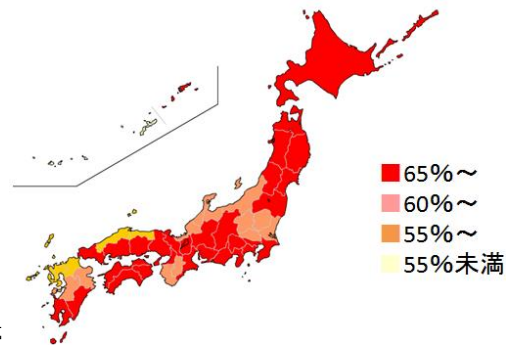
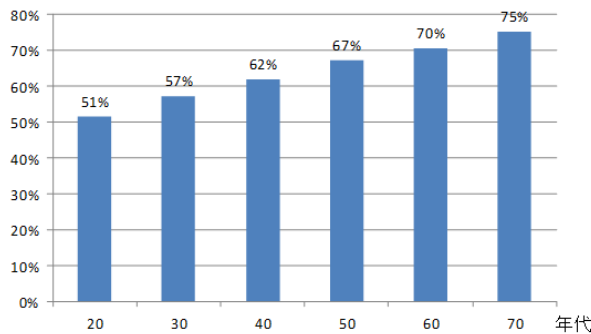


図2 ハザードマップの認知と年代

図3 ハザードマップの認知とエリア

ハザードマップの認知率

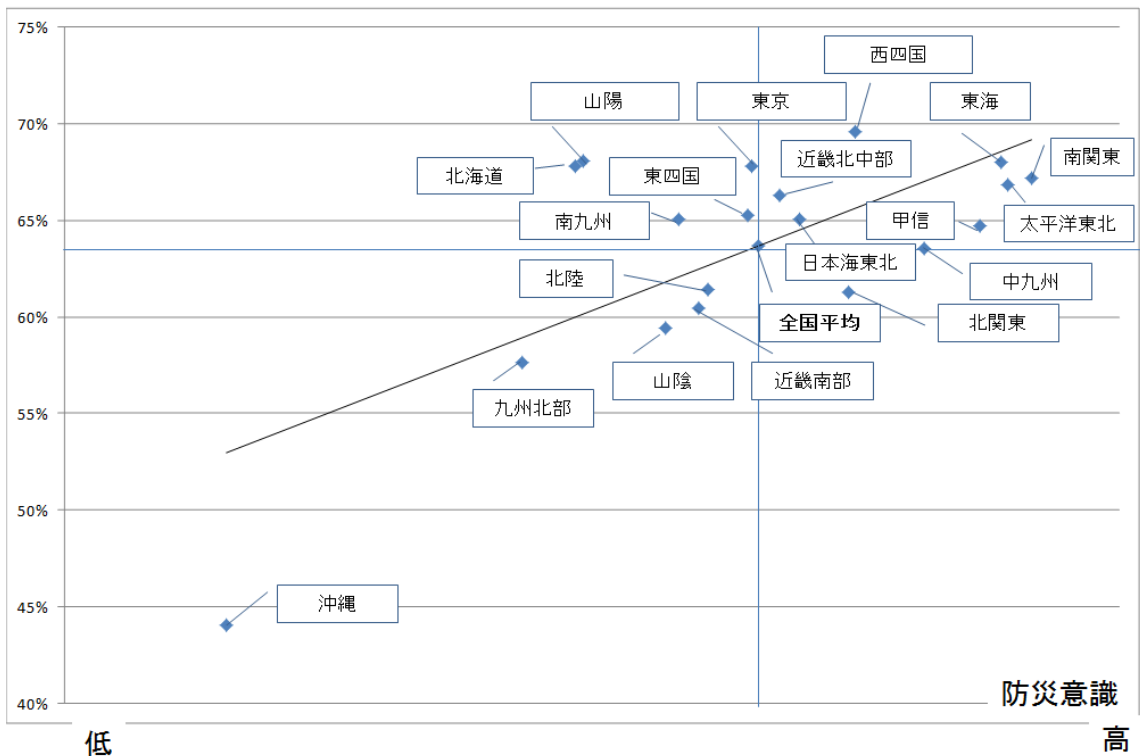
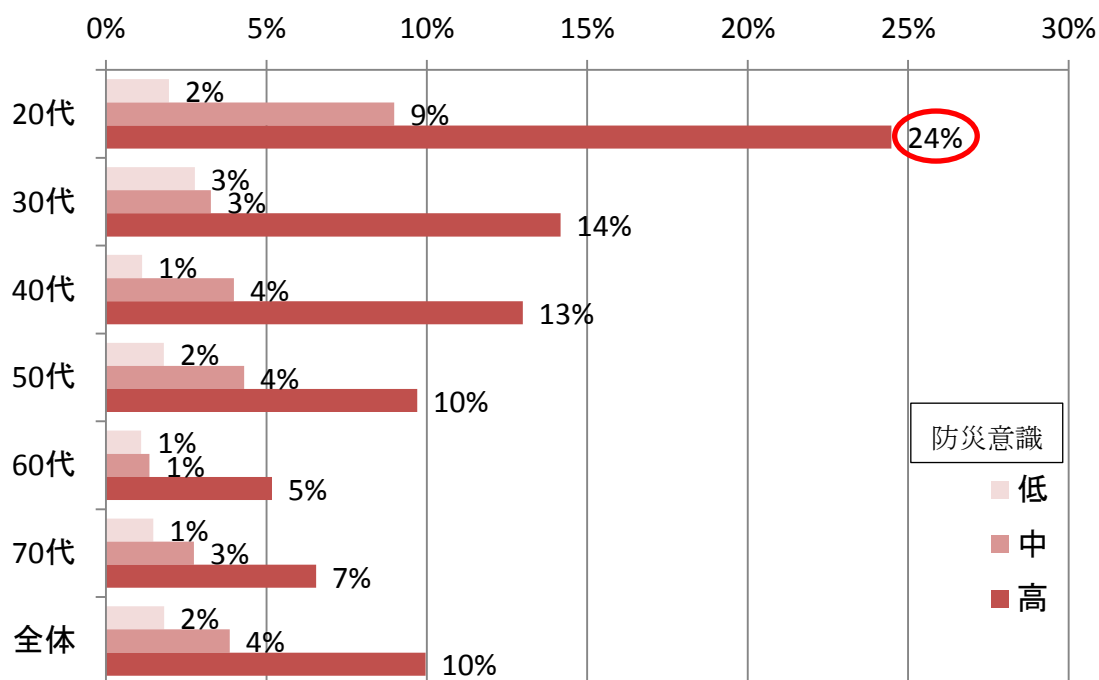


図4 ハザードマップの認知率と防災意識 (エリア別)

3ー 20代で防災意識が高い人の4人に1人はスマホにハザードマップを所持



※ハザードマップを知っている人が対象

図5 防災意識とスマホにハザードマップをダウンロードしている人の割合

現在はまだ少数ではあるが、スマホ・タブレットにハザードマップをダウンロードしている人はどんな人であるか、分析した。その結果、「年代」「防災意識」「イノベーター得点」が関係していた。具体的には20代の防災意識が高く、イノベーター得点が高い人が、最もダウンロードしていた。発災時にはこうした人たちが率先して、活用し少しでも周囲に影響をもたらすことが求められる。また将来的にはより多くの人々が、スマホなどにダウンロードし所持、もしくは、自治体へアクセスすることにより、ハザードマップが活用することが望まれる。

■調査概要

調査時期 : 2017年3月 調査対象: 全国、20～79歳男女 標本抽出法 : QUOTA SAMPLING
 性年代・居住地(全国を19ブロックに区分)で割付6,225サンプル回収 web調査

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com 03-5156-1087